

## 2019年度 体育科実践・研究計画

部 員 ○佐藤 秀恒, 佐々木 雅巳

研究テーマ

自他の心身と向き合い、考えながら動きを見いだす子どもを育む学び

### 1 研究テーマについて

体育科では、体育科の「見方・考え方」を働かせ、課題解決に向けた学習を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指している。この資質・能力は、健康・安全についての理解や基本的な動きや技能、問題解決に向けて思考判断し、他者に伝える力、運動に親しみ、楽しく明るい生活を営む態度である。また、体育科の見方である運動の楽しさや喜びを味わうことや体力の向上につながっていることに着目することと、自分と運動の多様な関わり方について考えることが重要である。

本校体育科では、体育・保健の「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を育成するために、昨年度は、動きの系統性を踏まえた単元構成および体育・保健の「見方・考え方」を働かせる学習過程の工夫の二つについて、重点的に1年次の研究を進めてきた。

一つ目の単元構成については、3年生の実践では、1時間目のオリエンテーションで単元全体の流れを分かりやすく提示したり、5年生の実践では、子どもから発せられた思いや願いに沿って単元の進め方をコーディネートしたりしたことで、子どもが単元全体の見通しをもって学習に臨むことができた。また、運動の特性にふれることができるようにしながら子どもにとって最適な課題を提示したことや学習の課題や解決方法の提示のタイミングを子どもの思考・判断を促すように工夫したことが効果的だった。

二つ目の「見方・考え方」を働かせる学習過程については、動き方のこつとカンに着眼した。動き方のこつはキーワードで表して共有化を図り、カンはタスクゲームでその動きをくり返し行うことで身に付けることができたようにした。自らこつやカンを意識することができたことで次の学習に生かすことができた。

その一方で、体育科に必要な「見方・考え方」を自ら働かせながら、自覚的に一人一人が自分事として課題を捉え、解決する方法と真摯に向き合い、その成果や新たな課題についてふり返り、次の学びへとつなげていくことについては、課題が残っていると考える。そこで、2年次もこの研究テーマを継続する。

研究主題にある「自律した学習者」を体育科では、心と体を一体として捉え、自分に合う動き方や健康な過ごし方を考え試しながら、学びの成果や課題を見だし、生涯にわたって運動に親しもうとしたり健康であり続けようとしたりする力を高めていく姿と捉え、本研究テーマを設定した。「自他の心身と向き合う」とは、自分の頭で考えている感覚と体で表現している動きがつながっているのかを自覚すること。また、友達の動感や動きのよさに目を向け、自分と比較することと捉える。そのためには、互いに動きを見合って、自分の考えを広げたり深めたりする対話的・協働的な学びが必要となってくる。「考えながら動きを見いだす」とは、自分の課題を克服するために、動きを試し、自らの学びを省察しながら自分自身を高めていくことである。「何を学ぶか」「どう学ぶか」「どう活かすか」を具体的に見通しをもって体を動かそうという意欲を高めることこそ、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の基礎を養うことにつながるものと考ええる。よって、体育科における「学びをつなぐ」とは、心や体で感じた感覚と体の動きとを往還させながら、課題を捉え直したり、動きの質を高めたりし、動きの精緻化を図ることと捉え、研究を進めていく。

体育科においては「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を以下のように捉えている。

- ・自分の動きについて、現状を捉え課題を見付け解決しようとする姿
- ・仲間同士で見合った互いの動きやよりよい考えを伝え合う姿
- ・今まきに行われる動きの中に共通点や相違点を見付け出す姿
- ・これまでに得た「見方・考え方」を想起しながら自覚的に用いる姿

## 2 研究の重点

### (1) 運動を通して、「めあて」と「変容」と「次の課題」をつなぐ、自己の学びに着目した効果的な省察の工夫

「めあて」と「変容」をつなぐためには、子どもが「自分の課題は何か」「課題を解決するために何をすべきか」「何を学んだのか」という自己の学びを省察することが重要である。そのために「見方・考え方」を働かせてどんな知識や技能が身に付いていたのか明確にする。そして、子どもから発せられたこつ等をキーワードで表し共有化を図ったり、相互評価したりして自らの「変容」を自覚する必要がある。

「変容」と「次の課題」をつなぐためには、子どもが「何を学んだのか」「学んだことを活かして、次は何をすべきか」という自己の学びを省察することが重要である。そのために、教師や仲間との対話の充実を図り、他者から学ぶことの機会を増やし、学びの成果に自ら気付くことができるようにしていく。

自己の省察と対話を通じた省察を往還するようにして次の課題が明確になるように支援していく。また、学びの成果と次の課題を可視化できる学習カードを準備し、学びの軌跡が分かるように工夫したい。

### (2) 体育科の「見方・考え方」を知り、関わりの中で活用しながら、自覚的に用いる力を高める単元構想の工夫

体育科の内容は、6つの運動領域に分類されており、発達の段階に応じて2学年毎に動きが系統立てられている。まずは、学級の子どもの実態と照らし合わせながら、本単元における目指す子どもの姿を明確にしていく。

「見方・考え方」を知る過程では、単元の導入でオリエンテーションを行うなど、自分の現状を捉える活動を位置付ける。「見方・考え方」を使ってみる過程では、個人やチームで行う学習方法(ボール運動：メインゲームにつながるタスクゲーム、器械運動：主運動につながるスモールステップ学習など)を教師や仲間と繰り返し用いることのできる場面を設定する。その状況や場面に少しずつ変化(動き・人数・コート広さ)を付けていく。

子どもたちが体育科の資質能力を育む「見方・考え方」を知り、「見方・考え方」を繰り返し働かせることができるように学習過程の在り方について検証を進め、運動の楽しさに気付き、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を高めていくようにしたい。

## 3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科部会</li> <li>・市体育研究会の提案授業への研究協力</li> <li>・附属中学校公開研究協議会 (5/31)</li> <li>・附属小学校公開研究協議会 (6/7)</li> <li>授業提案 佐々木 (雅) : 5 B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践・研究計画の確認</li> <li>・市体育研究会との連携</li> <li>・附属中学校との共同実践・研究</li> <li>・授業づくり、授業力の向上、授業を通して重点事項の検証</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究パンフレット執筆</li> <li>・教科部会</li> <li>・全市一斉授業研究会</li> <li>・東北附連研究集会 佐藤 : 3 C</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践・研究のまとめ</li> <li>・実践・研究の修正</li> <li>・市体育研究会との連携</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科部会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学への研究協力</li> <li>・実践・研究計画の立案</li> </ul>

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正